

第3回『びほろ』みらいまちづくり会議

1. 開催日時・場所

開催日時：2025年11月26日（水）18時30分～20時00分

場所：しゃきっとプラザ集団健診ホール

2. プログラム

（1）美幌町のこれからの将来イメージについて

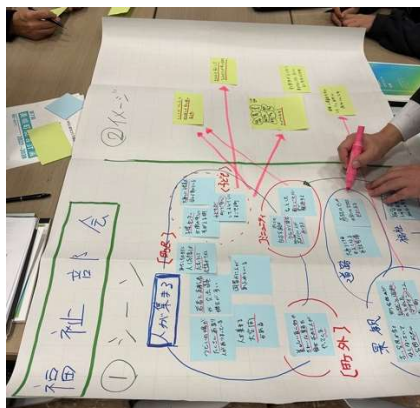
- ・情報提供（前回会議及びまちづくりフォーラム(10/7開催)の内容)
- ・意見交換（ワークショップ）
- ・グループごとの発表とまとめ

3. 意見の概要

第2回の会議で出された課題を踏まえつつ、「①10年後の美幌町で見られるまちのシーン」を議論し、そこから「②10年後の美幌町の将来イメージ」について意見交換を行った。

10年後のまちのシーン、将来イメージともに、人が集うことでまちを活性化していくイメージが出されていたほか、「にぎわい」に関する意見が多く出された。

また、観光による活性化、農業を核にした産業の活性化、子育て、コミュニティ、多世代交流などの意見が多く出された。



(1) ワークショップで出された意見の概要

ワークショップで出された意見から将来イメージを整理。

①「にぎわい」が創出されているまち

まちの中心市街地活性化が、5つの部会（グループ）で共通に出された。

- ・商店街・中心市街地のにぎわい創出
- ・多世代が集まる場、にぎやかなイベント
- ・図書館・広場・道の駅など“集まる場所”の必要性

②観光・交流により活性化しているまち

観光は「産業振興」だけでなく「交流」、「にぎわい」、「まちの誇り」にもつながるというイメージで出されている。

- ・KCT（屈斜路カルデラトレイル）を活かした観光振興
- ・美幌峠、キャンプ、体験観光での観光振興
- ・ハイカーと住民の自然な交流
- ・観光客がまちなかに流れて滞在する
- ・観光 × 教育、観光 × 農業 の融合

③子育て・教育の充実したまち

子育て・教育が、「移住促進」や「まちの活性化」につながるというイメージが出されている。

- ・子どもの声が聞こえるまち
- ・小中一貫・体験型教育
- ・子育て世代の移住増加
- ・子どもセンターや施設の充実

④多世代交流とコミュニティが活性化しているまち

「人とつながる暮らし」のイメージが出されている

- ・高齢者も若者も集まる空間
- ・自治会のつながり、助け合い
- ・福祉的なつどいの場、みんなの食堂

⑤農業の強みを活かし産業が活性化しているまち

農業を「核」とした地域ブランドの形成をイメージしている

- ・6次産業化、加工食品
- ・農業と商業・飲食との連携
- ・地産地消、安定した農業経営
- ・ファーマーズレストランなど

⑥豊かに安心して暮らせるまち

「便利」「安全」「景観」が感じられ安心して豊かな暮らしができるイメージが出されている。

- ・コンパクトシティ化
- ・車がなくても暮らせるまち
- ・災害に強いまち

- ・道路・交通整備
- ・景観の向上

(2) グループごとの意見

【総務部会】

①これからの美幌町で生み出したいシーン

●産業を活かす

- ・6次産業化が進んでいて町内で生産から販売までできる
- ・基幹産業の農業を活かし作物を使った商品がたくさん生まれている

●商業施設に活気がある

- ・その周辺の魅力ある店舗やイベント会場がならび活気がある
- ・飲屋街が明るく人と活気に満ちている

●公共施設に活気がある

- ・まちなか広場での交流
- ・図書館＋民間施設の複合施設がある
- ・まちなかの新しい「道の駅」に集まる町内外の人でにぎやかになっている
- ・みどりの村が予約でいっぱいになっている
- ・高齢者が来訪者にいかに美幌町が良いまちが自慢できるようにするシェアハウスを増やす

●美幌町の特徴を活かす

- ・コンパクトシティが実現し他の自治体に指導できるまち

●子どもたちが楽しく遊んでいる

- ・たくさん子どもたちが安全に楽しく施設で遊んでいる
- ・買い物で子ども連れの家族が増えている
- ・子どもでにぎわうイベントがたくさんあるまち
- ・子どもたちがIターン、Uターンしたくなるまち
- ・職場・住環境・地域のきずなの再構築が進んでいるまち

●町外者に興味をもってもらう

- ・町外の人にも興味を持って立ち寄ってもらえるまち
- ・町外からの研修旅行・見学旅行に来てもらえる目玉があるまち

●空港の近さを活かす

- ・女満別空港に近いまちとして多くの人が宿泊施設を利用している
- ・空港に近い立地で避暑に来てもらう

②将来イメージ

●農業・産業・商業が連携した元気なまち

- ・農業と飲食店が連携して産業・商業が盛んになったまち



- ・産業を活かしたみんなが働けるまち
- ・宿泊施設が充実し通りすぎるまちから脱却しているまち
- ・まちなかのシャッターが開いた明るいまち
- ・飲屋街が明るく人と活気を取り戻したまち
- 災害に強く安心できるまち
- ・災害に絶対安全と宣言できるまち
- ・災害に強いまち
- 子どもから老人までやさしいまち
- ・子どもから老人までやさしいまち
- ・子どもたちが安全に楽しく遊べるまち
- ・家族で楽しめるまち
- ・町民が不自由せず生活しやすいまち
- ・大人も子どもも楽しそうに住んでみたくなるまち
- ・老若男女全ての世代が生き生きと生活でき、町外の人が見学しに来たくなるまち
- 帰ってきてホッとできるようなまち
- ・なつかしさ、帰ってきてホッとできるまち
- 歴史などまちの強みを活かしたまち
- ・海軍跡を活かした他にない観光の取り組みがあるまち
- ・伝説とエンタメを提供できるまち

【町民生活部会・経済部会】

①これからの美幌町で生み出したいシーン

●観光・交流

- ・KCT 屈斜路カルデラトレイルを楽しむ人に美幌峠でおかえりなさい、いってらっしゃい
- ・美幌峠にホテルを誘致して観光客と地元の人の交流する
- ・宿やキャンプ場で交流が生まれる
- ・町民の魅力をハイカーが SNS で発信している
- ・町民と来訪者が一緒に飲食を楽しんでいる
- ・地元の土産や野菜をザックに詰めて帰るハイカーがいる
- ・学校学習でハイカーの偶然の出会いがある
- ・高齢者も若者も集える場所がある
- ・美幌高校生がアルバイトをしていて地元の人や観光客とコミュニケーションをとることで交流の輪が広がる
- ・キッチンカーイベントがある

●子育て支援

- ・子育て世代が空き家に移住している
- ・公園で子どもたちや親子の姿を見かける

●安心して暮らせる

- ・食の安全から地元の農産物を使って名物を売り出している
- ・天候に左右されない農業経営がおこなわれている
- ・新たな作物の収穫が増えている

●多様な連携

- ・桜ヶ丘は親の送迎を前提とする施設としないようにする
- ・子ども中高生プラザを起点とするバスでの送迎がある
- ・親の仕事が終わるまでアクティビティを楽しんだり、宿題や部活動ができる
- ・美幌町みどりの村、桜ヶ丘、駅・児童センターなどの連携により複合機能あるまちづくり「しゃきプラ」
- ・ゴミ処理施設の熱を利用してスイーツなどを製造販売する
- ・高齢者もシルバー料金でプルーを利用できる
- ・駅ロータリーではバス待ちの人がゆっくり待つことができる

②将来イメージ

- ・観光交流を活発にして PR、知名度が高いまちにする
- ・二地域居住などしながらスローライフを楽しめるまちになっている
- ・観光交流から二地域居住、多様な方々が暮らしを楽しめるまちになっている
- ・観光を軸に町民と観光客の活発な交流があるまちになっている
- ・目標として KCT を 170 人から 10000 人



- ・ KCT ファンを増やコミュニティをつくる
- ・ 美幌峠からまちの中心部、空港をつなぐ
- ・ ハイカーと町民が交流する暮らしと観光が融合したまちにする
- ・ 町民と観光客の交流文化が根付いているまちにする

【福祉部会】

①これからの美幌町で生み出したいシーン

●人が集まる

- ・つどいの場がたくさんあり、人が集まっている
- ・人が集まる大空間がある
- ・若者と高齢者が交流する機会が多い
- ・あっちこっちで高齢者の会話が盛んである
- ・図書館に人があふれている
- ・子どもセンターがまちの中心にそびえるまち
- ・大通りに子どもたちが並んで歩いている
- ・子どもがまちで安心して子どもらしく過ごせるまちになっている
- ・観光客は美味しい食べ物やきれいな景色を求めて人がやってくる

●コミュニティ

- ・自治会内でのつながりが強いまち
- ・地元のお祭りに人が集まる
- ・ちょっとした困りごとがすぐに解決する

●景観

- ・古い空き家がミニ公園になっている
- ・町全体が自然と調和の取れたデザインされたまちになっている
- ・なにかオシャレなまち

●道路整備

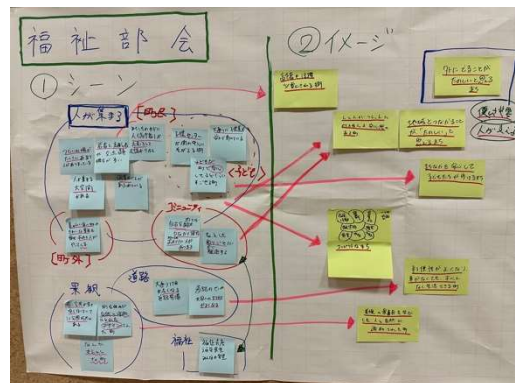
- ・大通が広くなるように道路整備
- ・道路整備により北見へのアクセスがよくなる

●福祉

- ・福祉売店や福祉食堂、みんなの食堂が開催されている

②将来イメージ

- ・高齢者も活躍、必要とされるまち
- ・人と人がふらっと付き合える安心感のあるまち
- ・地域とつながることがたのしいと思えるまち
- ・まちなかを安心して子どもたちが歩けるまち
- ・コンパクトなまち
- ・利便性がよくなり車がなくても不便なく生活できるまち
- ・美幌の景観を活かした人と自然が調和したまち
- ・外にできることが楽しいと思えるまち



【建設部会】

①これからの美幌町で生み出したいシーン

●観光・イベント

- ・和牛祭り、ふるさと祭りの他にもイベントが増えて、町外から多くの人が来ている
- ・美幌峠に観光客がたくさん来ていて、まちなかにも流れてきている
- ・郊外の道の駅に植物園ができ、道外から多数の観光客が訪れている

●にぎわい

- ・まちなかに人が集まる場所があり、様々な人でにぎわっている
- ・住む人、訪れる人、商売人が集まりにぎわっている
- ・商店街通りがにぎわっている
- ・空き店舗が活用されている
- ・若者の起業者が増えている
- ・びほーる、みどりの村、峠などが分散しているのが残念である

●スポーツ

- ・美幌町スポーツ複合施設の建設が進み、全道規模の施設であることから町外からの利用が増えている

●宿泊者

- ・観光・イベントやスポーツイベントによる宿泊者が増える

②将来イメージ

●きれいでにぎわいある商店街

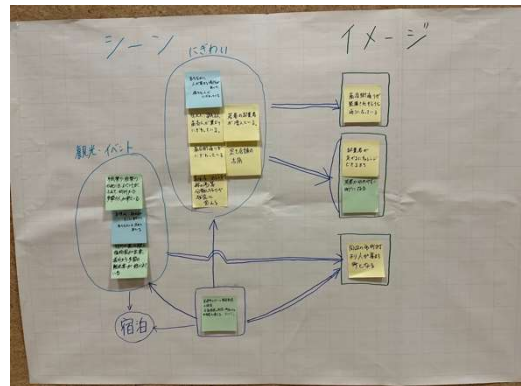
- ・商店街通りが整備され、きれいな通りになっている

●若者が起業するまち

- ・起業者が気軽にチャレンジできるまち
- ・若者が働きやすいまち

●人が集まるまち

- ・周辺の市町村より人が集まるまちとなっている



【教育部会】

①これからの美幌町で生み出したいシーン

●市街地の活性化・中心部ににぎわいが生まれている

- ・道の駅的な施設が中心部にあり、有名になり町内外から多くの来訪者がある
- ・コンパクトな中心市街地の日当たりの良いベンチにいる自分
- ・シャッターが閉まっている店舗が減っている
- ・子どもの「おはようございます」といったあいさつの声が聞こえるまち

●子ども・子育て世代が楽しくすごしている

- ・子育て世代が増えている
- ・子供が自由に参加できる体験型の授業が開かれている

●子どもたちが楽しく、自分から学びたいと思える教育が受けられる

- ・小中一貫教育が実施され、話題をよび町外から希望者が増え、移住者が増える
- ・学校跡地の活用で企業誘致が行われているほか文化活動拠点として活用されている
- ・事業者が学校で講師をする

●体験型観光や DX などの新たな試みで観光が活性化する

- ・絶景（雲海）やジビエ体験など美幌町の魅力を活かした体験型観光で観光客と住民がつながり美幌ファンが増えている
- ・農と食、生産者と消費者が直接つながるファーマーズレストランなどがあり、住む人と訪れる人が交流する居住地のよいまち
- ・外国人観光客から道を尋ねられたら町民が翻訳ソフトで返事をする
- ・農泊などの空き家の活用
- ・自衛隊の増強・日本の防衛強化、大災害・援助の強化

●地産地消・農産物の加工安定した農業ができる

- ・地産地消がしっかりできる
- ・農産物の加工施設の充実
- ・安定した労働環境と安定した収入確保

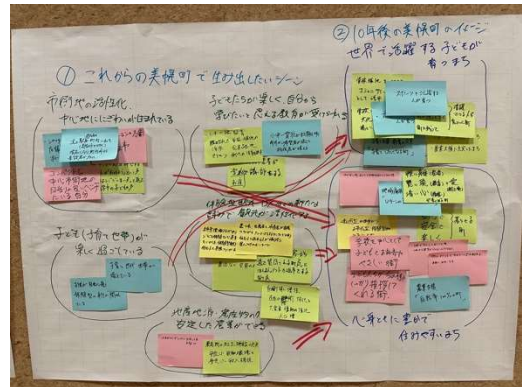
②将来イメージ

●世界で活躍する子どもが育つまち

- ・スポーツで活躍する人が育つ
- ・子育て支援、教育の充実、「子育てしたくなるまち」

●心身ともに豊かですみやすいまち

- ・強い身体（経済）、賢い頭（教育）＋愛（郷土愛）、清い心（福祉）のまち
- ・学校を中心として子どもと高齢者にやさしいまち
- ・子どもたちが現在のようにしっかり挨拶をしてくれるまち



- ・子どもが安心して過ごせるまち
- ・施設や公園が充実しているまち
- ・通過型から滞在型体験のまち
- ・安心安全で楽しく暮らせるまち
- ・農業の自給率 100%のまち
- ・イベントに行きたいと思われるまち
- ・住みやすいまち
- ・ある程度のものは揃うまち